

中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.10

三津浜中学校

今なお残る海上市道 地域に愛される渡し船「三津の渡し」

私たちの学校では、総合的な学習の時間と夏休み期間を使って、「三津浜地区について学ぶ」「マイタウンリサーチ」を行っています。たくさんの方が魅力がある三津浜地区の中で、私たちは地域で愛され続ける渡し船「三津の渡し」について調べました。

「三津の渡し」ってなに？

三津港(松山港の三津浜地区)内で運航されている500年以上の歴史を誇る渡し船です。正式名称は「松山市道高浜二号线」。正式名称が示すとおり、海上を走る市道です。三津浜西性寺前と港山地区との間、約80mを小型動力船で結んでおり、生活に欠かせない存在として、地元の人たちに親しまれています。

「三津の渡し」の歴史

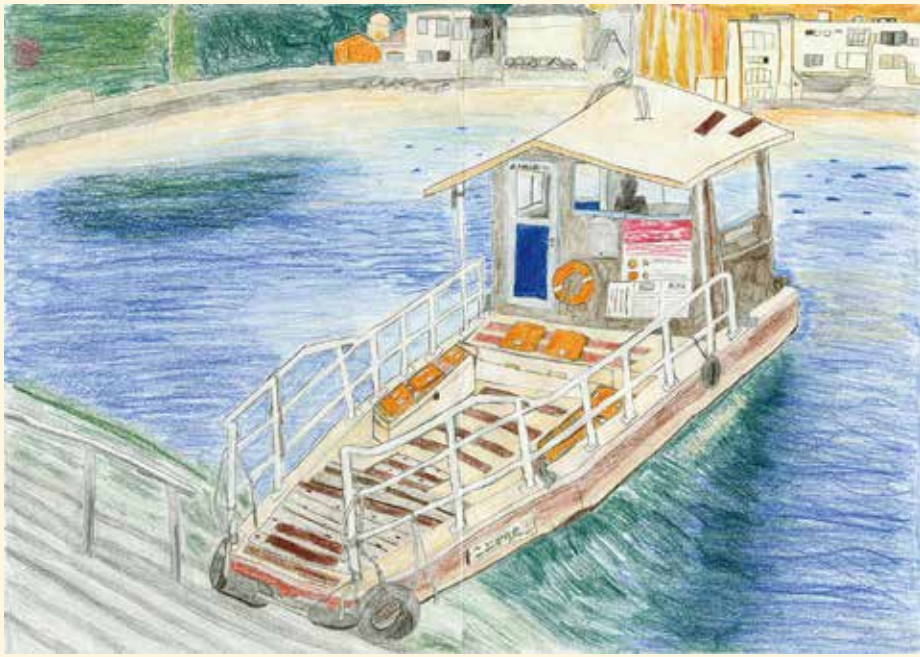
1469年、河野通春が港山城主だったとき、渡し船を利用したのがはじまりといわれています。1603年、松山城主が三津を水軍の根拠地と定め、現在の場所に船着き場を置きました。洲崎に魚市場があったこともあり、商人などが頻りに利用して大変にぎわいました。また、俳人・小林一茶も句会に参加するため、この渡しを利用したといわれています。当初は水竿(すゐすゐ)を使って操船していましたが、1970年にエンジン付きの船になりました。



若江 愛彩さん (1年)



中本 彩葵さん (1年)



三津の渡し (中本 彩葵さん作)



高橋 玲光さん (1年)



小川 泰輝さん (1年)

「三津の渡し」豆知識

別名、三津の人たちは「洲崎の渡し」と呼び、港山の人たちは「古深里(こぶかり)の渡し」と呼びます。そこで2隻の船は「すさき丸」「こぶかり丸」と名付けられ、地元に住民に愛されています。また、最近では映画やドラマなどの舞台になったり、テレビや雑誌などで紹介されたりと、地域住民の生活の足としてだけでなく、松山を訪れた人たちにも港町の風情を楽しんでもらえる観光スポットになっています。

現在もたくさんの方が利用しています

市道であるため乗船は無料で年中無休です。また、7時から19時まで運航していることもあり、通勤・通学、通院など、幅広い世代の人たちが利用しています。調べてみたところ、1日約100人程度、多い時には約150人もの人たちが利用しており、欠かすことのできない交通手段になっています。

地域の魅力を再発見できました

マイタウンリサーチを通して「三津の渡し」について調べる中で、私たちの地域の魅力を再発見することができ、このまちがもっと好きになりました。これからも三津浜のいいところを見つけていきたいです。



私たちの学校ではこんな活動も！

地域の宝を守る 平成船手組ジュニア

三津浜地区には、三津をこよなく愛し、三津を盛り上げたいという志をもった人々たちによるボランティア団体「平成船手組」があります。三津浜中学校ではその活動に協力して地域の魅力を再認識し、三津を盛り上げようと、生徒らも「平成船手組ジュニア」としてボランティア活動に参加しています。



花火大会の会場準備にみんなが参加

中でも、松山の夏の風物詩である三津浜花火大会には、約300人も生徒が希望して集まり、大会前日・当日・翌日の3日間、おそろいのTシャツを着て、清掃活動や会場設営、ジュース販売や来場者の案内など大会の運営をサポートしています。生徒らの視点で地域の魅力を発信し、地域の宝を守り続けていけるよう、さまざまなイベントに参加しています。

先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III」



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができ、ます。